

研究計画書

1. 研究の内容

(1) 研究題目

(和文) 非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に関する研究～日本型教育先進地エジプトにおけるTokkatsuの効果検証～

(英文) Study on internationalization and quality assurance of extracurricular activities (Tokkatsu) aimed at fostering non-cognitive skills~ Verification of the benefits of Tokkatsu in Egypt, a frontrunner in Japanese-style education ~

(2) 機関名 国立大学法人筑波大学

(3) 対象国 エジプト

2. 研究の目的及び概要

本事業は、エジプトの小学校で導入・実施されている特別活動（Tokkatsu）の現地化の実態を調査し、個人と社会のウェルビーイングを支える要素ともいわれる非認知能力（生涯にわたって必要な学びに向かう力）に与える影響を明らかにする。加えて、エジプトの関係者と共同で、質保証を目的とするディプロマ・プログラムを作成することを通じ、国際的通用性と倫理性を備えたグローバル・スタンダードな日本型教育モデルを開発する。

エジプトで実施中のODA事業と相乗効果を発揮するとともに、カイロ日本人学校の協力を得て、人材の重層的ネットワーク強化にも貢献する。また、日本特別活動学会との連携を通じて、調査結果を国内に還元し、日本の教育の国際化につなげるとともに、将来的にグローバルサウスと呼ばれる国々の教育改善にも貢献できる知見の創出を目指す。

3. 研究の期間

令和5年9月～令和6年2月

4. 当該年度における業務実施計画

(1) 本事業を通じて取組む相手国・地域の教育課題

エジプトでは、エジプト日本学校（Egyptian-Japanese School/EJS）51校や一部の公立学校において、非認知能力の向上を目的に掃除・日直・学級活動などが実施されている。教科中心のカリキュラムで学級生活の時間がないゆえに、様々なカスタマイズを行いつつ、適切な現地化の方法を模索している。同時に、Tokkatsuの効果的な実践に向けた教員の能力向上が喫緊の課題となっており、短期の専門職コースを大学に新設することを希望している。

一方で、日本型教育は社会性や協調性を育てることに強みをもち、特別活動が重要な役割を果たしてきた。「生活づくり」「自治」といった共通の基底をもちつつ、具体的

な手法・実践は各地域や学校の特色を活かしてアレンジが加えられてきた。質保証をめぐるっては、教職課程で「特別活動に関する指導法」の科目が必修化されており、各学校でも現職研修が活発である。これらの知見を、実践者・研究者主体の「草の根交流」を通して有効活用する。

(2) 活動及び成果

活動①	エジプトの小学校でのTokkatsuの調査
どのように実施するか	エジプト日本学校 2 校、公立学校（パイオニア校）2 校において、授業の参与観察、学級会 360 度動画の分析、Tokkatsu 導入マニュアルの分析、教師（12 名）・児童（12 名）へのインタビューを行う。調査内容は、カスタマイズの特徴、話し合い活動の方法、個と集団の関係性、負の側面への対応、教師間の協働・同僚性、などである。
期待されるアウトプット	ナショナルな文脈を超えて発揮される特別活動の非認知能力育成機能を分析することで、日本型モデルの適用可能性を明らかにできる。また、多様性を認めない同調圧力、集団による個人のコントロールといった特別活動が及ぼしうる負の作用をエジプトがどのように認識し、乗り越えようとしているか考察することで、国際教育開発をめぐる倫理的課題に応答できる。

活動②	Tokkatsu オフィサー研修・認証制度の調査
どのように実施するか	教育・技術教育省、研修協力機関、県教育事務所において、「能力一覧」等の資料分析、研修の参与観察、受講者（TO）へのインタビュー（6 名）を行う。調査内容は、新制度導入の背景、効果、教師のニーズ、Tokkatsu の専門性、大学等との連携、などである。
期待されるアウトプット	Tokkatsu を担う教師の専門性の向上は日本でも課題となっており、共同研究によってこれまでにない意識啓発・指導力育成の方法を考案できる。それはエジプトの教師の実践力向上とともに、「逆輸入」によって日本における「特別活動推進教師」の構想につながる。さらに、非認知学習を対象にした授業研究（レッスンスタディ）の手法を構築することにも貢献する。

活動③	Tokkatsu デイプロマの共同開発に向けた協議
どのように実施するか	活動①、②と並行して、デイプロマ・プログラムの内容と実施体制について、エジプト科学技術大学およびカイロ大学の研究者と協議する。
期待されるアウトプット	日本とエジプトが協力してTokkatsuの研修コースを開発することで、日本型教育の体系的な質保証に寄与する。また実践者・研究者主体の互恵的・継続的に学び合う「草の根交流」モデルを構築することで、ナショナリズムや覇権競争に陥らない教育トランスファーの実現に貢献できる。

活動④	カイロ日本人学校とエジプト日本学校との教職員の交流
どのように実施するか	本事業のメンバーのファシリテートのもと、カイロ日本人学校とエジプト日本学校（EJS）（2 校）との間で、小学校教師（20 名）の交流会を実施する。Tokkatsu に対する理解を深めるとともに、合同の学校行事（学芸会や運動会）や保護者交流の可能性について議論する。

